



ごみの減量に 取り組もう

9月20日(水)～10月31日(火)は
秋のごみ減量・資源化促進期間

問い合わせ 清掃事業課 (西24北4、☎37・2311)

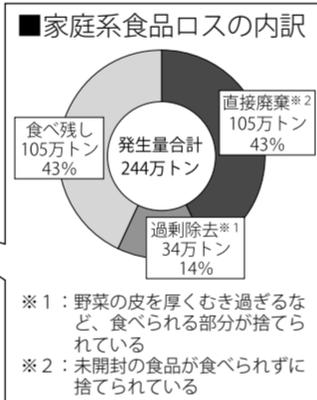
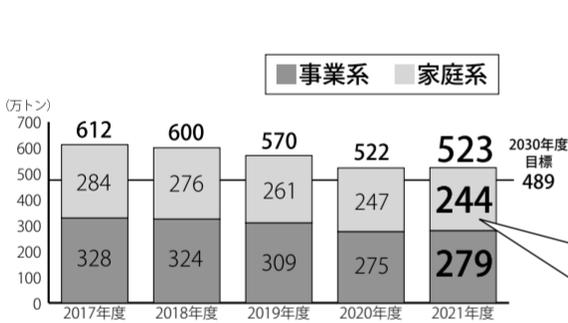
帯広市の令和4年度のごみの総排出量は5万3789トンで、前年より1026トン減少しました。帯広市民1人当たり1日約900グラムのごみを排出した計算になります。

ごみの収集や焼却には多くのエネルギーを消費します。エネルギーを節減し、住みよい環境を守るため、さらなるごみの減量に取り組みましょう。

日本で発生する食品ロスは1年間に約523万トン

食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、国民1人当たり約114グラムが、毎日ごみとして排出されています。これは、お茶碗約1杯分のご飯と同じ量に相当します。

日本の食品ロス発生量の推移



一人ひとりができること

食品ロス削減で大切なことは、食品を「おいしく、残さず、食べること」

一人ひとりの小さな心掛けで食品ごみを減らすことができます。

- 必要な分だけ買う
- 買った食材は使い切る
- ごみが出ない調理方法を選ぶ
- 保存方法を工夫する など

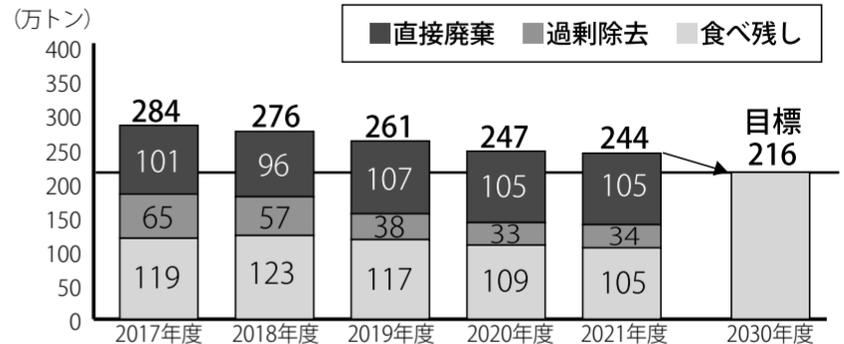
他にも『フードドライブ』『フードバンク』という取り組みもあるでござる！
気になる人は調べてみるでござる！

食品ロスを削減し、ごみの減量につなげましょう。

リサイクル忍者
わけすけ



家庭系食品ロス量の推移と削減目標



外食時も食品ロスを削減！ 宴会五箇条

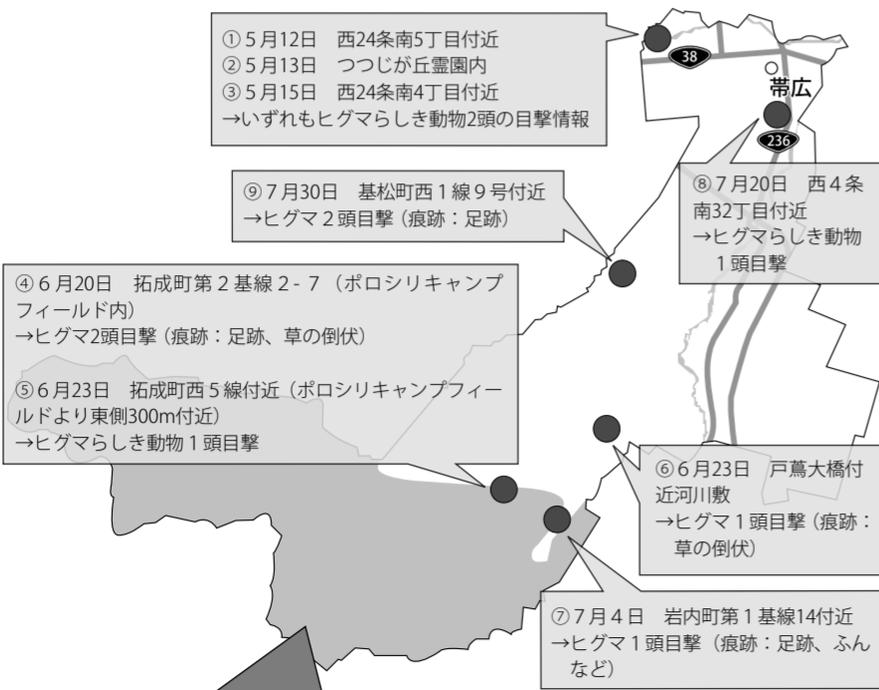
- まずは、適量注文
- 幹事さんから「おいしく食べきろう！」の声掛け
- 開始30分、終了10分は、席を立たずにしっかり食べる「食べきりタイム！」
- 食べきれない料理は仲間で分け合おう
- それでも、食べきれなかった料理は、お店の人に確認して持ち帰りましょう

ヒグマの出没に 注意！

秋はキノコ採りなどにより、ヒグマとの接触が多くなる季節です。野山はヒグマの生息域であることを認識し、事前にヒグマの情報を確認しましょう。

問い合わせ 農村振興課 (市庁舎7階、☎65・4173)

今年度のヒグマ目撃情報 (8月7日時点)



八千代・拓成・岩内方面はヒグマの生息が確認されています！

八千代町や拓成町は目撃情報も多く、岩内町の林道ではヒグマのふんも多数確認されています。戸蔭別川での釣りや山林周辺でのキャンプなど、立ち入る際は十分に注意してください。

ヒグマってどんな動物？

ヒグマの生態

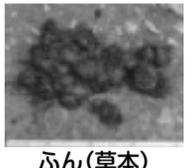
- オス**
体長: 2.0m弱
体重: 約150～400kg
- メス**
体長: 約1.5m
体重: 約100～200kg

●聴覚 聴力に優れ、音に対しては敏感。
 ●視覚 昼夜を問わず行動できる視力を持ち、目は決して悪くはない。ただ、あまり遠距離の物はよく見えづらい。
 ●嗅覚 敏感で、埋めた残飯などもすぐに見つけます。
 ●暮らし 極力人間を避けて、やぶの中などに隠れて行動することが多い。早朝や夕方に比較的活発に歩き回る。
 ●運動能力 逃げるものを追いかける習性があり、時速50km程度で走る事ができる。

ヒグマと出会わないために

ヒグマと遭遇した時に確実に身を守る方法はありません。何より大切なのは、ヒグマと出会わないことです。

- ヒグマに近づかないためには**
 - ・鈴やラジオなど音の出るものの携行、複数で行動し大声で話す、車のクラクションを鳴らすなど、人間の存在をヒグマに知らせる
 - ・日の出、日没時などの薄暗い時間帯は野山に立ち入らない
 - ・エゾシカなどの死骸を見掛けたら速やかにその場を離れる
 - ・ヒグマのふんや足跡、臭いなど異変を感じたら直ちに引き返す
- ヒグマを引き寄せないためには**
 - ・収穫後の農作物や、家庭から出た生ごみを野外に放置しない
 - ・庭先の果物を収穫せずに放置しない
 - ・山林などに、においの強い食べ物を持参しない
 - ・弁当や飲み物などの食べ残しや容器は、必ず持ち帰る (土中に埋めてもいけません)



ヒグマの情報はここでチェック！

●市ホームページ

市ホームページ ID.1003094



●市公式LINEでも配信しています
友だち登録はこちら▶

